

経営一転語 67 正しいワンマン経営とは

普通「ワンマン経営」というと、悪い経営の代名詞として、使われます。大企業においては、確かにそうかもしれません。

しかし、中小企業においても当てはまるのでしょうか。

社長は、会社の責任を一手に背負います。会社が倒産すれば、副社長が責任を取るとか、常務が責任を取るとか、専務が責任を取るとかいう話しは聞いたことがありません。

だから、中小企業においては、社長一人が責任を取り、社長一人が決定する「ワンマン経営」こそが、正しいのです。

従業員の意見をいちいち聞く「民主経営」などしていたら、この変化の激しい現代では、倒産してしまいます。

では、「正しいワンマン経営」とはどのようにすれば実現していくものなのでしょうか。

次のようなことがあげられると思います。

1. 社長は自らの経営理念に基づく我が社の「未来像」（ビジョン）を持ち、
2. その未来像を実現するための目標と方針を、自らの意思と責任において決定し、これを「経営計画書」に明文化します。
3. そして「経営計画」を社員に、よくよく説明して協力を求めます。
4. 経営計画の最も重要な施策は自ら取り組み、他は任せます。

以上のようなことを心がけると「正しいワンマン経営」が自然と実現していくでしょう。